

■今年の国語は！？

やや難化。しかし、基本的な「読解力」を問う良問

■出題形式

例年度通り、大問3問構成で、とで論説文の読解問題、で作文であった。昨年度（'19年度）まで「抜き出し問題」と「選択肢問題」が大半を占めており、「記述問題」は小問2問（解答欄数は3個で、30字以上40字以内、10字以上15字以内、5字以上10字以内）であった。小問数は昨年度と同じ11問だが、解答欄数は19個と'18年度より前に戻った。記述問題については小問3問と大きく増えたわけではないが、解答字数（30字以上40字以内、50字以上60字以内、45字以上55字以内）は全体的に大幅に増えた。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	50分	50分	50分
大問数	3問	3問	3問
小問数	13問	11問	11問
配点	100点	100点	100点
最高点	非公表	非公表	非公表
受検者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

■出題内容

論説文：『進化の法則は北極のサメが知っていた』 渡辺 佑基 約3000字 河出書房新社

論説文：『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』 河野 哲也 約3000字 河出書房新社

生物学者である作者が、「体温」を手掛かりに地球上の生物の姿、かたち、生き方を決定づけるメカニズムに迫るという内容。作問者はこの文章を使って、結論が得られただけで研究を終わらせるのではなく、別の可能性についても考え研究を重ねることの大切さを伝えたかったのではないかと思われる。小問5問の内訳は、語句補充1問（解答欄数1個）、選択1問（解答欄数1個）、ぬき出し1問（解答欄数5個）、記述1問、空所補充+漢字1問（解答欄数4個）。

課題を自ら見つけ、考え、話す力がますます重視される今、これらの力を身につける方法について書かれている。小問5問の内訳は、選択3問（解答欄数5個）、記述2問（解答欄数2個）。記述はそれぞれの問題文をしっかりと読んで理解し、その問われ方に則した解答を書くようにしなければならない。例：(4)理由・本文中の言葉を用いて 例：(5)具体的にどのような会話・本文中の言葉を用いて

の作文について、過去のテーマは以下の通りである。

'18年度… わたしたちがくらす社会では、「新しいものを生み出す力」と「すでにあるものを変える力」が大切な力だと言われています。これらの力がなぜ大切なのか書きなさい。

昨年度… ロボットと人間はコミュニケーションをとることができるのでしょうか。あなたの考えについて、そう考える理由と具体例をあげながら書きなさい。

今年度… わたしたちが学習する上で、「知識を身につけること」と「考えること」とは、どちらも大切だと言われています。これらがどちらも大切な理由を、自分自身の経験や、見たり聞いたりした経験を例に挙げて書くこと。

今年度のテーマは・の内容も踏まえれば、難しい課題ではなかっただろう。

■合格に向けての対策

出題形式に大きな変化は見られませんでした。今年度は小問数に変更はなかったものの、解答欄数は'18年度以前と同じ水準に戻り、記述の文字数は増え、作業的には負担が増えました。このため、受検生にとっては丁寧に読むことと同時に解くスピードが要求されることになっています。たとえば、 (5)抜き出し問題や (4)・(5)の記述問題などは、文章の話題と主張を丁寧に追いかける練習をしていれば、決して難しい問題ではありません。ただし、付け焼刃的な学習ばかりをしている受検生ではなかなか太刀打ちできないものになっています。

合格するためには、「授業」「講習会」「日曜練成講座」など普段から多くの文章に触れ、基本的な読解技術を習得し、そのうえで全体を通して筆者が言いたかったことを掴む訓練が必要です。もう一つ大切なことは「作文」への対応です。適当に思いついたことをまとめても、それは独りよがりの文章でしかなく、得点には結びつきません。与えられた文章をしっかりと読み取り、その内容に基づいて書くことが重要です。また、日頃から世の中の出来事に関心を持ち、そのことについて自分で調べるという姿勢を持ってください。そして、作問者が受検生に何を求めているのかを考えて書く練習をしておきましょう。

■今年の算数は！？

論理思考を要する問題が多く時間がかかる。

■出題形式

'17年度が共通問題2問に対し,'18年度は共通問題3問であった。昨年度('19年度)からはすべての問題が共通問題となった。例年通り計算問題はなく、すべて大問形式。5問で構成されている。また、三角定規を必要とする作図問題、記述式の問題が各1問ずつ出題されている。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	50分	50分	50分
大問数	5問	5問	5問
小問数	17問	21問	15問
配点	100点	100点	100点
最高点	非公表	非公表	非公表
受検者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 2018年度の大問数、小問数は洛北について記載。

※ 2019年度、2020年度は、京都府立校は全校共通問題を使用。

■出題内容

- ① 旅人算      ② 割合 (商品売買)
- ③ 平面図形 (作図, 相似)      ④ 不定方程式
- ⑤ 立体図形

① 直線部分と半円の部分で走る速さが違い、それぞれの人の速さに個性がある。それを見極め、最も合計タイムが早くなる組み合わせを考える問題。② 割引の問題。(2)は範囲がどうなるかを説明させる記述式の問題。(3)は割引によって合計金額が最も安くなる組み合わせを考える問題。③ いつもはコンパスによる作図であるが、今回は三角定規による作図である。(2)(3)三角形の3辺の長さの比を利用した相似の問題。④ お金の重さを扱った問題。100円玉の重さの小数第1位の数に注目して、数をあてはめて、100円玉と500円玉の枚数を調べ、貯金箱に入っている金額を調べる問題。何通りか試していき、条件を満たす組み合わせを考えるとよい。⑤ 直方体を組み合わせて、条件にしたがって容器を作る問題。

今年度('20年度)は、同じ傾向の問題が多く出題された。それは「組み合わせ」である。①, ②, ④, ⑤では、あらゆる組み合わせの中から正解を選ぶというような、不定形の問題ばかりとなっている。灘・甲陽・神戸女学院という兵庫県の最難関校で頻出の、「作業(試行)→考察(思考)」という流れの中に論理を組み合わせ、不定形を突破しなければならない。また、処理するのにも時間がかかるうえに、計算力が必要である。難易度は昨年度より上がり、合格基準点は昨年度より下がっていると思われる。洛北であれば40点~55点に受検生が密集しており、合格するには60点以上が必須であるものと予想する。

■合格に向けての対策

府立中学校の入試では、立方体の問題がよく出題されるので、次のような立方体関連の問題を練習しておく必要があります。立方体の展開図(頂点がどの点にあるか・平行な面はどれか)、立方体の面・辺・頂点の数、サイコロを使う問題(転がす・くっつける)、立方体を積み上げる問題(体積・表面積)などです。また、規則性や整数の性質の単元、割合も定番です。規則性の問題では平方数を扱ったものを、割合の問題では比例と相当算と商品売買を、図形の問題では三角形の性質・図形の拡大縮小などを、重点的に学習しておきましょう。また、コンパスや三角定規を使う作図についても練習をしておきましょう。

全体的に高度なテクニックを必要とする問題自体は出題されません。ただし、読解力、作業力を要求されていることは肝に銘じておくようにしてください。併せて、難易度は猫の目のように変化するものと認識し、実践演習を行う際には、次の2点に留意した練習をするように心掛けてください。①簡単な問題の場合は、全問制覇する勢いで最後まで解ききる。②難しい問題の場合は、できそうな問題を選び出し、すべての大問の前半の問題を解く。

洛北志望の受検生は、まず、第一段階として、計算力をつけることは言うまでもなく、長文を速く読む練習と基本的な問題演習を繰り返していき、速く正確に解けるようにしておきましょう。それができるようになったら、第二段階として、「場合分け」の訓練をしていくようにしましょう。どのような場合ができるかを書き出し、それぞれの場合においてどのような答えを導き出せるか考え、そして導き出した答えが問題文の条件を満たしているかのチェックをしていきましょう。

南陽・園部・福知山志望の受検生は、次の点について理解し、対策を進めていってください。府立校共通問題になる前年度である'18年度は、南陽の問題レベルが高すぎて平均点は低く、なおかつ標準偏差が小さかったと予想されます。一方、はじめて府立校共通問題になった昨年度は比較的解きやすい問題になったため、どの府立校でも算数で点数差がついたと分析できます。今年度は大問の前半こそ得点しやすく構成されていたものの、全体的な難易度が上昇しているため、洛北以外の府立校では平均点が低く、標準偏差が小さかったことと予想されます。結果的には、あくまでも洛北受検生用の問題となっており、洛北以外の学校であればもっと問題を易くしないと標準偏差は大きくならないような状況です。

よって、南陽・園部・福知山を志望する受検生は、無理に洛北合格に合わせた対策に取り組むことは得策ではありません。長文であっても正解できそうな問題を見つけ、要領よく解き進める練習にも重点を置くべきです。難易度が高い問題は思い切って後回しにして必ず最後の問題まで目を通し、問題文を読めば解けるものをすべて解き切るようにしてください。そして、多くの問題にチャレンジしていくように心がけてください。

■今年の理科は！？

昨年度よりやや歯ごたえのある内容

■出題形式

例年通り、府立4校では共通した問題が出題された。今年度(20年度)の適性をみる検査Ⅱにおいては、社会の大問が1つ、理科の大問が1つ、理社混合の大問が1つの構成である。昨年度(19年度)に比べると、理科の小問数は減少したが、問題文を読むのに多くの時間がかかるようになったと考えられるため、全体としての時間配分は同等であろう。今年度は、図やグラフをかく問題が2問、記述問題が3問あった。求められる理科知識は初歩的なもので、問題を解く上で必要なのは、比較的長めの問題文を読み、内容を把握・理解することである。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	50分	50分	50分
大問数	1.5問	1.5問	1.5問
小問数	14問	26問	18問
配点	100点	100点	100点
最高点	非公開	非公開	非公開
受検者平均点	非公開	非公開	非公開
合格者平均点	非公開	非公開	非公開

※ 制限時間・配点は社会分野も含む。

■出題内容

② オリンピックを題材にした総合問題(物理・生物・地学)

③ 理社混合総合問題(化学・生物・地学)

② (1)は表の数値をグラフにし、表やグラフの値をもとに適切な選択肢を選ぶ問題である。丁寧に落ち着いて数値を処理することが求められる。(2)は問題文をよく読み、東西南北がどちらかがわかれば難しくない。(4)は金、銀、銅の密度についての問題だが、具体的な数値が与えられていないなかで、異なる重さの金、銀、銅の体積を比較する点が難しい。(3)(5)は光や魚類の呼吸方法についての基本的な内容であるため、必ず合わせたい。

③ (5)は等高線から流れる川の位置を考える問題であり、等高線というものが何を表しているか理解していないと答えに辿りつくことが難しい。(6)は鉄とアルミニウムを区別する方法とその結果を答える記述問題である。中学受験に向けた学習をしていれば内容は容易にてでくるが、複数の解答が考えられるので、自らが最も書きやすい内容の記述を選べるとよい。(7)は昆虫の成長についての基本的な内容であるため、必ず合わせたい。(8)はマスを数えて、それをもとに気孔の個数を推測する問題である。ただし、 $\text{mm}^2$ と $\text{cm}^2$ の単位変換に注意しなければならない。

■合格に向けての対策

昨年度よりは難易度が高くなったものの、洛北高校附属中学を目指す受検生は85%以上の得点率を狙いたい難易度でした。適性検査では、単純暗記では解くことができない問題を解くための読解力と思考力が求められています。しかしながら、中学受験で必要な知識や暗記事項が不要かといえば、そうではありません。知識や多様な問題を解く経験が土台としてあつての思考力です。また、府立中高一貫校の入試ではグラフを読み解いたり、グラフを書かせたりする問題が出題されることも多いため、データを読み取り整理する力も不可欠です。つまり、府立中高一貫校の入試では、中学受験で出題されることの多い全単元の基本的事項を確実に抑え、得点することができる問題をミスなく合わせる力と、読解力・思考力が求められる問題に対応できる力が揃っていなければなりません。また、正答率を下げるために、ひらがなや漢字指定で答えさせる問題や単位の変換が必要な問題が出題されることがあるので、落ち着いて丁寧に解くことも求められます。

基礎力は、私立中高一貫校に向けた学習で身につくものです。最難関私立に出題されるような高難易度の問題を解けるようにするのではなく、どの私立中学にも出題されるレベルの問題を100%解けるようにすることが目標です。読解力・思考力は、日常生活も含めた日々の訓練・経験・考察で得られるものであり、一朝一夕では手に入るものではありません。受検前の2年～3年をどのように過ごしてきたかで適性を見極めているのではとも思えます。理科においては、問題にかかっている実験などが頭の中でイメージできるかがカギとなります。常識的な言葉の意味を知っているのはもちろん、自分がこの実験を行って見たらどのようなことが起こるのかを柔軟に臨機応変に考えることができるかどうかです。日頃から理科の事柄・事象を立体的に想像すること、そして想像しにくいものについては実際に体験してみることが効果的でしょう。

■今年の社会は！？

3校全共通問題定着 地理・歴史…各資料の理解と、その比較・分析 公民…3年ぶりの出題

■出題形式

適性をみる検査Ⅱで、社会科分野の配点は実質 50 点分と推測される。大問数は、今年度（'20 年度）も大問 1.5 問（**3**は例年通り理科分野との融合問題）であった。'18 年度までは、大問 2 問中 1 問が共通問題、もう 1 問が各校ごとに異なる出題であったが、昨年度と今年度は 4 校で全て共通問題であった。なお、小問数は 11 問であった（各小問中に複数の解答を要するものもある）。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
制限時間	50 分	50 分	50 分
大問数	1.5 問	1.5 問	1.5 問
小問数	14 問	9 問	11 問
配点	100 点	100 点	100 点
最高点	非公開	非公開	非公開
受検者平均点	非公開	非公開	非公開
合格者平均点	非公開	非公開	非公開

※ 制限時間・配点は理科分野も含む。

難易度は、各小問の文章量の増加、文章解答問題及び思考を要する問題の増加によってやや難化と捉えてよいが、実際には「できる・できない」の差が大きく出たのではないかと思われる。

■出題内容

**1** 総合(地理・歴史・公民)…各班が設定したテーマに基づく地理・歴史・公民総合問題

・出題テーマ 1 班「日本の歴史」 2 班「日本の伝統文化」 3 班「日本の食料問題」  
4 班「日本の国土の広がり」 5 班「日本の人口問題」 6 班「日本の災害対策」

**3** 総合(地理・歴史)…世界文化遺産「富岡製糸場」をテーマにした会話文に基づく地理・歴史総合問題

**1** (1) I 漢字指定の出題である。(2) 記号選択は「すべて選び」とあり、解答は複数選択。(3) テーマは食料問題ではあるが、ここで公民分野が出題された(「国会」・「日本国憲法」)。(4) 地球儀を用いて、日本の北端から西端までの距離を調べる方法を説明させる文章解答の問題。条件(注意事項)に地球儀以外の道具を使用してもよいとあり、「糸(紐)」を用いるとよい。(5) 地理データ分析問題。(6) I 近年日本で発生した、大規模な自然災害の発生地を答える問題で、時事問題に含まれる。II 「輪中」地域の防災面での課題を、地図と資料を参考にして説明させる文章解答問題。III 日本の河川の特徴について、15 字以上 20 字以内で解答させる短文補充問題であるが、「短くて急」である理由の部分が空欄である。このようなパターンの短文補充問題は毎年出題されている。 **3** (1)～(5)が社会科分野の出題。豊富な地図・資料などが用いられた出題であるが、全体的に難易度は低い。(1)漢字指定・ひらがな指定が混在しており、1 問 1 問を丁寧に読み取る必要がある。都道府県の形は頻出。(2)《語群》は「すべて選び」、《写真》は「1 つ選び」である。(3)緯度の近い世界の 4 つの都市の雨温図をそれぞれ選ぶ問題であるが、レポートの内容から確実に識別できる内容。(4)説明文を読み取り、該当する円グラフを選ぶ問題。(5)等高線から雨水がたどる道筋を考えたり地図に直接書きこんだりする問題(京都府が発行している「出題の観点」にあるように、「図表やグラフ、資料等を見て、～(中略)～文章や図表、数式等で表す」という中高一貫校独自の出題傾向に即した問題。)

昨年度に雨温図の出題で不備があり、その影響が今年度は神経質なほどに各小問の説明が詳細・丁寧になっている。その結果上述のように各小問の文章が長くなっていると推測する。

■合格に向けての対策

公立中入試で増加傾向にある文章解答問題の割合が再び増加しました(昨年度は**1**(3)の 1 問のみ)。空欄補充問題では、空欄に短文を挿入するパターンが定着しています。空欄の前後の文章から、あてはまる語句や短文を的確に選び出し、解答する練習を積み重ねておきましょう。また、「漢字指定」「ひらがな指定」などの解答条件に注意してください。

出題分野について、地理・歴史分野は必ず出題されます。原則として、学校教科書の範囲内からの出題で難易度は高くはありませんが、私立中学受験に必要な知識も求められており、学校教科書限定の知識だけでは不十分といえます。地理分野のみならず、歴史分野においても絵画・写真・地図などの資料が増加しています。これらに則して、歴史分野では「人物」「文化」「建築物」について、地理分野では「都道府県」の地図上の位置・形・県庁所在地・隣接県などを徹底して押さえてください。なお、公民分野からの出題は 3 年ぶりでしたが、地理・歴史に加え、公民分野も含まれた 3 分野融合問題として出題されました。来年度('21 年度)以降も基本的な内容の出題は想定し、学習しておくことは必要でしょう。「三権(国会・内閣・裁判所)」「日本国憲法」を中心に基本的な内容を確実に押さえておきましょう。

解答時間が 50 分ですが、理科分野と合わせて「適性をみる検査Ⅱ」となるため、単純に社会科分野にかけられる時間は 25 分です。かなり短いと思われる制限時間に加え、各小問の文章が長く、必要な部分のみ確実に見ていくことが必要であり、解答するにあたって最低限のスピードを知っておかなければなりません。その上で、高得点勝負を想定し、ケアレスミスを最小限にする慎重さも重要です。よって、過去問やテスト演習などでは、制限時間内に一通り解答できているか、などの時間配分の対策しておく必要があります。